

くまがや自治連だより

ひろば

第6号

平成21年10月発行



地域の伝統・文化の掘り起こしと継承

副会長 橋 本 國 男

あつさは熊谷で全国的にむすつから有名になつた本市では、昨年度から「あつさはればれ熊谷流」プロジェクトを立ち上げ、壁面緑化事業、熊谷駅広場冷却ミスト事業、花いっぱい事業、百年の森づくり事業等様々な取り組みを推進している。

三六八人の会長さんも、各自治会で地域の実態・特性にそった様々な取り組みを実施している。また、安全・防犯という日常的な行動に加え、季節ごとの祭事や環境美化活動、防災訓練も実施されている。

これら諸活動を通して、私たちが最も留意しなければならないのは、地域の伝統・文化を掘り起こし、これをいかに若い世代に伝達し継承していくかであろう。安全・安心なまちづくりに貢献しつつ、歴史と文化を大切にした地道な取り組みで本市をより住みよいまちにしていきたいと思う。

会員皆様のご協力をあお願い申し上げ、自治会の歩みを確たるものとしていきたい。

会長あいさつ



熊谷市自治会連合会
会長 黒澤 啓

皆様には、日頃から各地の自治会活動にご尽力いたしました。誠にありがとうございます。

さて、私たちを取り巻く最近の社会状況は、経済不況に始まり、新型インフルエンザの流行や、集中豪雨等の異常気象など、大変厳しいものとなつております。

このよだな中、自治会は、常に生活者の視点で地域社会をよくするため、ひたむきに努力しております。

各地域自治会におかれましても、ゴミの減量化のためのリサイクル活動や、地球温暖化防止のための緑化活動など、地域社会の新たな課題に対し、様々な取り組みを実施されていることだと思います。一つ一つの活動は微力ではあります、その積み重ねが大きな力になるものと私は考えます。

熊谷市自治会連合会も、更なる団結をし、暮らしやすい地域づくりのため、各々の自治会活動の円滑な運営が図られるよう、今後も努力してまいりたいと考えております。

副会長	会長
柴 茂木	黒澤 啓
矢島 征一郎	(東区)
小林 橋本	高橋 徳夫
富田 山口	(中央1区)
辰辰 澄夫	(中央2区)
岡田 半禄	(中央3区)
池田 和好	(西1区)
鈴木 德夫	(西2区)
高橋 徳夫	(北区)
茂木 小林	(妻沼地区)
木村 征一郎	(江南地区)

連合組織を持たない自治会	中 西			曙町・万平町			筑 波			銀 座			中央1区
	中	西	中西第1	曙町一丁目	曙町二丁目	曙町三丁目	桜木	筑波第7	筑波第4	筑波第2	筑波第1	銀座第8	
菅野 相澤	後 中	中	西	曙町四丁目	曙町五丁目	曙町二丁目	筑波第7	筑波第6	筑波第5	筑波第4	筑波第2	住吉町	銀座第8
孝男 雅夫	西 部	東	東	万平町二丁目自第1	万平町二丁目自第2	万平町二丁目自第3	万平町二丁目自第4	万平町二丁目自第5	万平町二丁目自第6	万平町二丁目自第7	万平町二丁目自第8	未広	銀座第8

連合組織を持たない自治会	本 町			大 原			元 町			宮 町			中央2区
	本	町	大原	大	原	元	町	元	町	宮	町	宮	
宮町中央	仲町	北本町	南本町	仲町	大原南	大原北	星川	元町第6	元町第5	宮町第8	宮町第7	宮町第6の1	宮町第1
箱田中央	箱田常盤	箱田神明町	箱田宮本	箱田中	神明町	仲町	本町中央	元町第4	元町第3	宮町第7の2	宮町第7の1	宮町第5の2	宮町第2

連合組織を持たない自治会	上 石			本石二丁目			石 原			中央3区	
	上	石	坪井第2	本石二丁目	本石二丁目	本石二丁目	石原第4	石原第3	石原第2	石原第1	
太 平 洋	月見町	石原一丁目	上植木	上石第2	上石第1	本石二丁目	本石二丁目	本石二丁目	本石二丁目	本石二丁目	石原二丁目
セ メ ン ト	社 宅	月見町	坪井第1	坪井第2	坪井第1	第2	第1	第2	第1	第2	第1

成 田 西 部	成 田					久 下					佐 谷 田			星 宫
	成	田	久	下	佐	谷	田	星	宫	自	治	会	会	
京成熊谷上之	藤之宮	東陣場	稻荷木陣場	上原	向諏訪	上宿	宿裏	吉原	成田	下川上	戸出	佐谷田東区	佐谷田西区	下川上
木村口	黒澤	田中	関口	加藤	秋場	棚沢	木村	栗原	小沢	高田	稻村	宮本	龍前	木村

西2区		別府		新堀		玉井		西1区	
大麻生	三尻								
広瀬團地	女壠	三尻西部	別府二丁目	新堀第5	新堀第3	県営玉井団地	玉井中央	久保島第一	玉井
小島	上川原	三尻中部	下増田	新堀第4	新堀第2	高柳	玉井在家	久保島第二	高柳
小島	中郷	三尻東部	別府三丁目			高保島		久保島第一	久保島第一
小島	赤城	拾六間第2	別府二丁目			島		高保島第一	島
小島	西川原	拾六間第1	自衛隊管轄A・C連合			荒木		高保島第一	高保島第一
小島	東部	新堀新田				森田	田	高野	福嶋
小島	東部	自衛隊管轄A・C連合				吉田	森	高野	小林
三村	野辺	岡部				神崎	島	高野	朝眞
三村	松野	鈴木				吉宏	田	高野	幸
三村	馬場	宣明				秀彦	島	高野	福嶋
三村	岩澤	文敏				泰二	勝美	高野	保
三村	中嶋	喜彦				俊博	文男	高野	正幸
三村	深澤	久也				大澤	勝雄	高野	朝眞
清行	秋雄					孝夫	文男	高野	幸
清行	良昭					辰美	文男	高野	福嶋
清行	延吉					薰	勝雄	高野	朝眞
清行	良雄					大澤	文男	高野	幸
清行	好城					孝夫	勝雄	高野	朝眞
清行	春夫					辰美	文男	高野	幸
清行	史					薰	勝雄	高野	朝眞

中条		肥 塚		北 区		吉 岡		荒 川		南 区		籠 原	
今井		肥塚新里	肥塚中島	自治会名		万吉		宮前東部		自治会名		籠原住宅連合	
熊谷グリーンタウン	肥塚中島	北肥塚	西肥塚	肥塚中央	肥塚中央	楊井	平塚新田	河原町	宮前西部	伊勢町	見晴町	宮本町	新堀新田北部
高荷	正夫	海老原武雄	昭功	植竹	金十	福田	渡辺	堀	砂堀	宮前	見晴	美土里町	ことぶき団地
満雄	秀雄	清治	功	鈴木	飯田	芳澤	小林	山口	松田	光二	山村	佐藤木元	外原雅義
				健一	増田	宗秀	宗秀	小林	松田	真市	旭	柏崎	相馬政法
					福岡	智陽	正雄	野口	山川	光二	和田	靖夫	藤野和夫
					秀雄	清治	幸雄	山口	松田	良二	村	柏崎	佐藤木元
					正夫	功	良之	小林	山川	稔	原	厚	相馬政法
					正夫	功	穂	野口	松田	光二	原	和田	藤野和夫

妻 沼		妻沼地区		連合組織を持たない自治会	
		自治会名	会長名	大幡團地	奈良
若宮・川端	東岡	柿沼団地	新島	中奈良	中条川北
中岡	妻沼本町	中央東肥塚	原島	下奈良	小曾根
登り戸	一本木	肥塚雀宮	柿沼	集福睦会	大塚
池ノ上	聖天町	県営肥塚団地	熊谷下奈良団地	中妻団地	中条川南
錦町	横町				
下町	寺内・寺内新田				
妻沼仲町	上町				
卯月花	福寿寺				
杉弥道王子	弥藤吉中口				
原口栗田	栗田権	小林	紫藤真樹子	山下晶	小林樹本
田	田	飯塚	小彼	浜野志村	吉野彦次郎
善次輝	岩治太郎	寺居	林敏夫	植原	松岡勝男
次	賢次	山中	高岸	本間陽三	嘉明正
善	芳雄	小林	西山	田沼	鈴木正
次	輝	饭	敏彦	那二	篠田
次	輝	塚	高山	高柳	飯塚
次	輝	喜	那	善造	文夫
次	輝	太郎	一	二	嘉明
次	輝	郎	正毅	鈴木	正
次	輝	一	那	孝治	嘉明
次	輝	夫	二	雅実	正
次	輝	郎	三	豊	吉野
次	輝	一	子	江利川正一	彦次郎
次	輝	夫			松岡
次	輝	一			勝男
次	輝	郎			樹本
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			彦次郎
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	郎			吉野
次	輝	一			吉野
次	輝	夫			吉野
次	輝	一			吉

大里										秦										長井									
大里地区					自治会名					会長名					齊藤金十郎					会長名					長井				
冴山輪	箕作玉	相上	向谷	津田高本	沼黒吉所敷	中曾根	天水	津田新田	屈戸	小泉	手島	下恩田	中恩田	上恩田	葛和田	荒宿	向野	西島	下宿	中宿	上入	西野	西野	田島	西城台	西城			
飯島上	坂上矢島	浅井	小林	三村	錦織	黒澤	鈴木	服部	山岸	長島	新井	森	茂木	穴水	江原	島田	江黒	小林	森	今村	塚田	広瀬	細谷	松本	魚谷	茂木			
祐幸	幸輝	一治	勝美	武司	征淮	和生	重夫	孝夫	好夫	潤	儀詮	正雄	祥一	大久保	高橋	春里	勝利	一好	善	進三	允里	憲司	一夫	登	進二				



全自治会數 368自治會

平成二十一年九月現在
※色付は地区連合会長

江 南										自治会名	会長名
成沢	あおば	成沢	吉田	和雄	山口	安之	小松原秀元	柴田英二郎	山田		
成沢南	江南みどり	江南中央南	吉田	和雄	山口	安之	小松原秀元	柴田英二郎	山田	武男	
三本	上新田	上押切	大津	秀中	大島	重夫	柴田英二郎	山田	武男		
樺春北	樺春南	下押切	永田	三千利	正巳	正巳	柴田英二郎	山田	武男		
樺春南	樺春北	上押切	橋本	喜徳	喜徳	喜徳	柴田英二郎	山田	武男		
須賀広	御正南	御正第3	伊藤十四革	祐作	睦	睦	柴田英二郎	山田	武男		
野原	小江川	御正第2	折川	勝彦	睦	睦	柴田英二郎	山田	武男		
板井	塩	御正第1	杉田	吉澤	吉澤	吉澤	柴田英二郎	山田	武男		
千代	柴原谷	御正南	飯島	小林	伊藤十四革	伊藤十四革	柴田英二郎	山田	武男		
江南中央	江南パークシティ	御正南	飯塚	一雄	秀男	秀男	柴田英二郎	山田	武男		
杉嶺	矢崎	御正南	杉田	功	朝光	朝光	柴田英二郎	山田	武男		
泰夫	賢二	御正南	飯塚	潤	潤	潤	柴田英二郎	山田	武男		
	義勝	御正南	杉田	功	功	功	柴田英二郎	山田	武男		
	征一郎	御正南	飯塚	一雄	秀男	秀男	柴田英二郎	山田	武男		

江南地区	大里	小八林
船木台	船木台二丁目	瀬戸
五丁目	船木台三丁目	橋本
自	自	松本
佐藤	昌三	秀春
了	了	友久
		昭一

◇長井自治会連合会◇

連合会長 茂木 進一

長井自治会連合会は十八の自治会で構成され、加入世帯数は二、三七〇世帯（平成二十年度末）と大きな連合会です。利根川右岸に位置し中心を福川と備前渠が流れ、平坦で肥沃な耕地では米麦を中心、ハウス栽培による野菜作りも盛んで、近年、西城地区に完成した有機センターの稼動により、減農薬、減化学肥料による有機栽培が推奨され、安心・安全な野菜作りを目指し、各農家共頑張

り、減農薬、減化学肥料による有機栽培が推奨され、安心・安全な野菜作りを目指し、各農家共頑張

っています。



めぬま有機センター

只、ご多分にもれず当地区も農家の後継者問題は深刻で、農業従事者の高齢化が年々進んでいるのが現状です。

明るい未来のために何とかこの問題が解決できないかと皆、腐心しているところ

であります。

そんな農村地帯にも、各地に団地ができ、新旧住民が同じ自治会員として色々な行事等にも積極的に参加し、安全で住み良いまちづくりに向けて協力し合っています。

次に長井地区の由緒ある場所を紹介したいと思います。

龍泉寺（善ヶ島）

境内にある観音堂は、三間四面の方形のお堂で、支輪等の様子に江戸初期の特徴を良く表しています。細部は和様と唐様を巧みに織り交ぜた県内で最も代表的な建物として、昭和三十四年、県指定文化財に指定されました。

平成四年に修復工事が完了、御本尊は不動尊明王です。



龍泉寺観音堂

同族の長井齋藤実直の養子となり、長井庄に移り住んだとされています。実盛は、折からの戦乱の世に巻き込まれています。源氏の兄弟間の争いで、わずか二歳の駒王（後の木曾義仲）の命を助けた実盛は、源氏方につき保元・平治の乱で大活躍します。その後、領土安堵を条件に台頭した平家につきました。巻き返しを図る源氏は、木曾義仲が挙兵、勢力を延ばします。平家方だった実盛は、形勢不利を承知の上で出陣していきます。孤

軍奮闘の末、勇壮な最期を遂げました。実盛の死を知った義仲は、昔、命を助けられた思いを偲び、さめざめと泣き、孝養を誓つたと源平盛衰記は伝えています。（「めぬま郷土かるた」より引用させていただきました）



中世館跡

西野の中世館跡（実盛塚として伝わる）

福川に架かる井殿橋より右岸を上流に少し入ると、実盛塚として伝わる板碑が見えてきます。古代長井庄の中心的位置だったようですね。

妻沼聖天山を開いた齋藤別当実盛は、大治元年（一一二六年）越前の河合齋藤家に生まれ、

◇弥藤吾連合自治会◇

会長 栗田 岩治

弥藤吾地区の概況を紹介させていただきます。

区域は、旧妻沼町市街地南側に位置しております。戸数八九〇戸、九つの単位自治会で構成された弥藤吾連合自治会です。区内には妻沼南小学校、妻沼西中学校、県立妻沼高校があり、道の駅めぬま、妻沼物産センター、妻沼行政センター、妻沼運動公園、老人福祉センターひかわ荘等の施設もあります。尚、妻沼西部工業団地の進出企業も決まり建設中です。産業も農業を中心とした地域から文教や健康福祉地域、更に野菜の産地を活かした直売物産センターや将来に向かつて大きく変化しつつあります。

熊谷市になつてすぐに妻沼南小学校区連絡会が各界の代表によつて組織され（略称校区連）自治会との連携もスムーズに行われておりますので、その活動も紹介します。

その前に説明しておきたい事は、弥藤吾地区の自治会は妻沼自治会連合会にも入つており、組織上は重複してしまふ形になるので、熊谷市自治会連



グランドゴルフ大会

校区連との連携について

熊谷市になつて三年経過しましたが、校区連の活動も活発に行えるようになりましたので、その一端を紹介します。先ず地域活動を円滑に推進するため四つの方針を出しました。安心安全美化推進、スポーツレクリエーション（スポ・レク）の推進、ふれあい推進、青少年育成の推進でした。各界の代表で組織する校区連二十二名の役員全員に四つの方針の一つを選択してもらい、四つの推進グループを編成して活動を行っています。

- ① 安心安全美化——地域の防犯パトロールについて協力者の募集を行い、百五十名の登録をいただきました。この人々を中心に、子供達の上下校の見守り活動を行っています。美化活動では、年二回の南小の一斉下校の時、通学路を子供達と一緒に清掃活動・クリーン南を行っています。
- ② スポ・レク——南小運動会への多数の地域区民の参加、長寿会のグランドゴルフ大会の開催。
- ③ ふれあい——南小フェスティバルとして地域の先生の募集をしています。四十名以上の先生により伝統文化にふれる活動として(A)作るコーナー（木工細工・タオル人形・ドングリ工作・絵手紙等）(B)遊ぶコーナー（ベーゴマ・お手玉・あやとり・カルタ・剣玉等）この他たくさんの先生の特技を紹介。



清掃活動・クリーン南

- ### 多岐にわたる自治会活動に思う
- 世の中便利でスピードと変化の激しい時代になりました。その反面、負の部分も生じてきます。各種の自治会活動も益々多岐にわたってきます。各種の回覧や配布物や集金・連絡等、更に防犯活動・防災の問題、環境美化とリサイクル活動の推進、核家族・一人暮らしの問題、これらのふれあい活動まで含めていきますと際限がありません。今、地域力を活かす事が大切だと言いますが、良好な信頼関係を育てることが出来るのも自治会活動しかないと思います。一人一人の協力信頼関係が基になると多岐にわたる行事や活動を円滑に実施することは出来ません。車の両輪であると思います。これについて我が弥藤吾連合自治会は、一致協力・実行型と自負しています。

◇冴山自治会◇

会長 飯島祐典

冴山自治会は、熊谷市の南部に位置し、東松山市と隣接しており、会員は二〇三世帯と五法人で構成されています。

今回は、冴山地区内にある二つの名所、旧跡と自衛会活動を報告いたします。

根岸家長屋門と根岸友山

根岸家は中世に活躍した熊谷次郎直実の末裔といわれ、江戸時代中期以降、冴山村・箕輪村の名主を務め、約八十町歩の土地を有する豪農でした。

根岸家長屋門の構造は入母屋造、瓦葺で壁材は土壁です。外壁は下部の腰壁部分が板張り、それより上部は漆喰仕上げで、門部分は壁面より後退し、右側に潜り戸を有しています。脇部屋には出格子窓に似た窓が配され、両脇部屋は使用人の住居、倉庫、剣道場として使われました。長屋門の規模は桁行二十四m、梁間六m、棟高七m、面積は百四十m²で、建築年代は定かではありませんが、江戸時代後期といわれています。



根岸家長屋門

また、根岸友山は文化六年、冴山村の名主の

家に生まれ、文武に励み、剣を北辰一刀流の千葉周作に、学問を大木大学に学び、自邸内に三餘堂、振武所を設け、近郷子弟への就学に努めました。

また、大地主としての豊かな財を使つて、荒川や和田吉野川の水利改善に取り組みました。

毎年四月には、商工会等と協賛して「友山祭り」を開催し、無料竹の子掘り、大正琴の演奏、野立てや模擬店が立ち、大勢の人で賑わいます。

冴山古墳

比企丘陵の北東部に位置し、標高五一mの丘陵上に構築された古墳です。古墳の形がちょうどカブトの形から、この名がつけられました。

この古墳は中段にテラスをもつ円墳で、南北径九丈m、高さが十二mあります。円墳としては、さきたま古墳群の丸墓山古墳について県内二番目の大きさで、県指定の文化財となっています。



冴山古墳

①家庭ゴミの分別 毎週水曜日に当番制で危険物等を分別し、ゴミステーションの美化に努めています。

②ゴミゼロ運動の実施 年二回のゴミゼロ運動の他に、小學生・PTAによる親水公園の清掃と公園等の除草作業。



編集後記

「あついぞ熊谷」の熱気が天に届いたのか、今年は夏らしい天候が少なく、農作物への影響が心配されたり、各地域の夏祭り等で天候に悩まされたりしたことだと思います。

「ひろば」も第六号を数え、各地区の特色ある活動を詳しく知ることができました。これも各自治会長さんが先頭に立つて、地域の活性化のため活躍していらっしゃることによるものと、感謝とお礼を申し上げます。

多くの方々にご多用のなかご寄稿頂き、厚くお礼申し上げるとともに、各自治会の発展とご活躍をお祈りいたします。

副会長 小林 芳雄



「芙蓉」小林芳雄 作